



153

官業開業に備える

機中小企業総合研究所 主席研究員 坂 東 輝 夫

「官業（パブリック・ビジネス）」という新しい市場が中小企業の前に広がるようになっていく。すでに大企業の一部はこの新市場をモノにしつつあるが、官業は大企業だけが肩代わりできるというものでもない。むしろ、官業開放の趣旨から言うと、中小企業こそ官業が解放されることによって生まれる市場をモノにしなければならない。新しく生まれたこの市場をモノに出来るかどうか、個々の中小企業の工夫と挑戦意欲が試されている。

官業とは文字通り、官が手がけている仕事のことをいう。お役所仕事のことと考えればいい。「民で出来ることは民に任せる」とは小泉首相の口ぐせだが、確かに官が何でもかんでも手がけるというのは好ましくない。官には競争原理が働かないから、その分、効率が損なわれる恐れがあるからだ。規制緩和が同じ考えで唱えられているのは周知の通りである。

官業開放とは、官が手がけている仕事のうち、民が手がけた方が効率の良くなるものはどんどん民間に開放していくという運動である。構造改革特区と並ぶ

小泉内閣の目玉政策の一つであることは言うまでもない。民間に官業が開放されると、それだけ民間の手がける仕事が増えることを意味するから、民間にとっては望ましいことだろう。長引く不況の下で、仕事がないとばかり中小企業が増えているが、そうした企業にとっては千載一遇のチャンスと言ってもいいだろう。

現に、大企業の一部はすでに官業解放の動きをいち早くキャッチして、官業の肩代わりに成功しているところが出ている。よく知られたところでは、山口県にある刑務所の管理運営をセコムが落札した事例がある。大企業の落札ということではないが、今年2月に警察庁が駐車違反の取締りを民間委託するための説明会を開いたら、なんと900もの法人が参加したという話がある。警察庁の予想を大きく上回る参加者数で、官業開放という動きにいかに民間が敏感に反応しているかが良くわかる。

確かに、これまで官業は手を出したくても、手を出せない市場だった。それが指定管理者制度や市場化テスト、それにPFI（民間のノウハウと資金を活用した公共事業の手法）という外国仕

込みの新しい装いの下で、民間の手が届くようになってきた。とするなら、このチャンスを生かさない手はあるまい。いたずらに仕事のなさを嘆くよりも、どしどし官業の肩代わりに挑戦することが必要だろう。

もっとも、ここで言う官業とは何も中央政府の手がける仕事に限ることはない。地方自治体も官の一つであるから、自治体の仕事を肩代わりすることも考えていい。実際、東京都では来春から65の都立公園の管理運営に指定管理者制度を導入するという。自治体の官業開放の一例だろう。テストケースとして、すでに日比谷花壇の子会社が受託しているというが、この事例など、中小の造園業者にとって挑戦のしがいのあるビジネスと言えるのではないか。

官業だからといって、必ずしもデカイ仕事ばかりとは限らない。中小企業に見合った規模の仕事もあるはずだ。それを丹念に探して歩く。そういう地道な努力が必要だろう。さらに、官業の肩代わりに挑戦する以上、官業より効率良く仕事をする能力が備わっていなければならない。官よりも品質が劣らず、しかもコストが安いことが前提になる。そうでなければ、わざわざ官業を民に開放する意味がない。その能力が自社に備わっているかどうか。

とはいえ、官業を肩代わりする以上、民間企業にある程度の実績が求められるのは仕方あるまい。中小企業はそこでひるんでしまう。こうして、みすみ

すチャンスを逃してしまうことが良くある。では、中小企業はどうすればいいか。ここでは、北九州市のあるベンチャー企業の事例を見ておこう。設立したばかりのミニ企業が同市の博物館と記念館の管理を受託するのに成功した。実績がほとんどないのに、なぜ受託に成功したか。

このベンチャー企業は応札するのに際して、大手2社と手を組んだ。大手の1社は施設の管理・運営で実績がある。もう1社は集客力のある大手旅行会社だった。この2社と企業連合を組んだのが成功の秘密だった。この事例を「大手の力を借りての受託成功か」と読んで間違えう。大手2社を巻き込むベンチャー企業の創意工夫をこそ評価しなければならない。大手と組むことによって、実績のなさという弱点をカバー出来たのである。

官業開放によって生み出される市場は、一説によると、50兆円にもなるという。もし、この計算が当たっているとすると、GDP（国内総生産）の約1割の規模ということになる。これだけの市場が民間に開放される効果は大きいというべきだろう。この6月は政府の規制改革・民間開放推進会議が「あじさい月間」と称して、民間からいろんなアイデアを募集している時期に当たっている。民間開放のアイデアをどしどし出して、中小企業の仕事を作っていこうではないか。警察庁の説明会に集まった民間の熱意。それこそが中小企業に仕事を呼び込むのだ。官業を攻めようではないか。